

ゆ り い か
EUREKA

■親子で楽しめる！！



★へっへっくしょん
作/たあ先生

むしくんがぶーんと鼻の前をとおるとみんなくしゃみがとまらない！！それぞれの動物やキャラクターがくしゃみをしたらどうなるのか…白い背景にかわいいキャラクターと読みやすい大きな文字で小さなお子さんでも一人で読めちゃう1冊です。前作の「はっはっくしょん」と一緒に読んでも楽しめる！？

家族でめくって楽しめる
1～3歳向け絵本となっております。



★パンどろぼう

作/柴田ケイコ

パンが大好きなパンどろぼうの
ネズミがおいしいパンを求めて

歩いていると『せかいいちおいしいパン』という
パン屋を森の中で見つけて…

イラストのパンがどれもおいしそうで読むとついついお腹が減ってしまう一冊です。きれいなイラストと分かりやすいアクションの絵本なので絵だけでもストーリーがわかり、文字が読めないお子さんでも楽しめる作品となっております！

途中、パンどろぼうを探す場面もありあそび絵本としても楽しめます♪

■柴田ケイコ作 パンどろぼうシリーズ



■はじめての児童書ならこれ！！



■マチルダはちいさな大天才 作/ロアルド・ダール

映画にもなったチョコレート工場の秘密の作者ロアルド・ダールの作品の一つです。ロアルド・ダールらしいユーモア満載の作品で

マチルダという5歳の天才少女が自分を理解してくれず意地悪をする両親と暴君の女校長とを頭脳とちょっとした不思議なことで解決する内容となっています。マチルダを取り巻くまわりの環境は決して恵まれた物ではないけれどそれをマチルダがどう乗り越え、素晴らしい日常に変えているのか、マチルダのことを一番考えて一緒に寄り添ってくれるのはだれなのか。ユーモアの中に自分はどうかあるべきかを考えさせられる作品でもあります。

小学校中学年から楽しめる児童書です。

■ロアルド・ダール作の他作品



■ノラネコぐんだんと金色の魔法使い 作/工藤ノリコ



絵本でも人気のノラネコぐんだんが

はじめての読み物として児童書に！？

ノラネコぐんだんの読み物シリーズは

『ノラネコぐんだんと海の果ての怪物』に

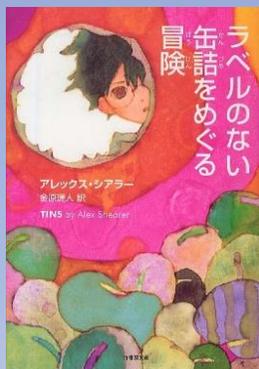
つづいての第2弾、どちらも小学校低学年向けで内容も絵本とは違い、少し長くてちょっぴり怖いお話になっていていつものお決まりの「どっかーん」とはじけるエンドではなく読み物らしい落ち着いたエンドを迎えています。絵本で楽しんでいたときよりはすこし物足りないと感じる方もいるとは思いますが、初めての読み物としては文字が大きく段落も分かりやすいため低学年でもすんなりとよめてしまう作品です。内容は前作の終わりで旅に出たノラネコぐんだんが旅の道中に悪い噂をききその先のネズミの村では子供がいなくなるという事件が起きて…

ワクワクとドキドキのノラネコぐんだんシリーズ冒険ファンタジーです！

■工藤ノリコ作の他作品



■夏に読みたいちょっと怖いYA

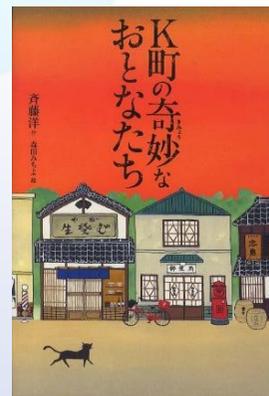


■ラベルのない缶詰をめぐる冒険 著/アレックス・シアラー

チョコレートアンダーグラウンドでも有名なアレックス・シアラー作品の一つでリアリティあふれるダークミステリー作品です。

スーパーでラベルのはがれてしまった缶詰を見つけた「ファーガル」はその日からラベルのない缶詰を集めるようになって…。中身のわからない缶詰は子供にとっては宝箱のようで夢があふれてるものです。たとえ中身がコーンやよくわからないスープだとしても。でもそんな宝箱の中に想像もしないものが入っていたとしたら？子どもたちの好奇心とその先にある社会の闇…読んでいくうちにどんどん誰を信じていいのかわからなくなる…でも唯一信じられたのは一緒に缶詰を集めた友達、君なら僕を助けられる。一度読んだら忘れられない作品です。

■アレックス・シアラー著の他作品



■K町の奇妙なおとなたち 作/斉藤洋

K町に住む「わたし」のまわりの奇妙な大人たちの話を11篇で描く怪奇譚です。小学生の「わたし」の視点でしかわからない大人たちの奇妙な行動の意味とは…。大人たちは総じて子供には大事な話をしてはくれない。「わたし」もきこうとはおもわない。それがただしいことだから。でも目の前に広がる不思議なことは一体何なんだろうか。お世話になった女性とすれ違った数時間後、父からその女性が長らく患っていた病気で息を引き取ったと聞いたり、近所の菓子屋に嫁いだ女性が電話ボックスのなかでしゃがんだと思ったらワンピースから着物姿に代わっているのを目撃したり…この町は不思議と不気味であふれている。なんども読み返したくなる作品です。

■斉藤洋作の他作品



■ オススメ一般書



■ かがみの孤城 著/辻村深月

中学に上がり色々なことが変わる中、とある理由でクラスから浮いてしまった主人公「こころ」は学校に通えなくなる。そんなある日、自分の部屋の鏡が突如光り、気が付いたら狼の被り物をした

少女と同じ年くらいの男女6人、そして見たこともない空間にいた。狼の少女はこの空間でカギを見つければ一人だけ願いを一つ叶えるといってきた...

中学生の不安定な人間関係と揺れ動く心情、鏡の世界の名前しか知らない仲間とも敵ともいえる人たち...

自らのしがらみを振り払って進んだ先には一体何があるのか...登場人物一人一人が違う問題を抱えその答えを探せずにひとり閉じこもっている様子がリアルに描かれ、そんな彼らが前に進んでいくにつれてどんどん孤城の謎に迫っていった...2022年12月にアニメ映画化もされるリアリティ溢れるファンタジー作品です。

■ 辻村深月著の他作品



■ 本を守ろうとする猫の話 著/夏川草介

夏川草介の心温まるファンタジー作品。大好きだった祖父がなくなり、祖父の書店の片づけをしている林太郎の元に人間の言葉を話す猫が現れて...

学校に行っても自分は空気だ...いてもいなくても一緒。本だけがいまのぼくを癒してくる唯一の存在だった。でもそんな本を傷つける人がいたら...?本を大事にするあまりろくに読みもせず書棚に飾ってるだけの人、本をみんなに分かりやすく読んでほしいと極端に短く切り刻む人...みんな本を大事に思うあまり本自身をおざなりにしてしまっている...それでは本を大事にしているとは言えない。本はみんなに読んでもらってこそその存在意義があるというものだ。いろんな人に読んでもらうからその本の価値がある。

祖父の大事にしていた本、そして本を大事にする気持ちの根底にあるものとは...林太郎の自立と成長の物語です。

■ 夏川草介著の他作品

